

技術・家庭（技術分野）

東京書籍

教育図書

開隆堂

採択基準 発行者名	東京書籍（新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原理・法則や基礎的な仕組みについて裏付ける図などを掲載し、科学的な思考に基づく知識が取得できるよう配慮されている。 ・ 見方・考え方を確認する活動を設け、統一された問題解決の流れを示し、自分自身の見通しがもてるよう配慮されている。 ・ 自分の問題解決の過程を振り返り、取り組んだ内容や新たな問題解決に向けての課題などを確認できるよう配慮されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 （本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3要素に沿って系統的に配列されている。 (2) ガイダンスや各編の題材の構成が、「調べてみよう」「やってみよう」「考えてみよう」等の身近な問題から、生活を工夫し、創造することができるよう工夫されている。 (3) 生活を実感的にとらえるために「技術のとびら」「技術の匠」「技術の工夫」など興味をもって追究できるよう配慮されている。 (4) 実習中等の安全な作業の方法や事故防止のポイントを、巻頭に示したり、文中に「安全」マーク、「衛生」マークで記したりして、安全に作業できるよう配慮されている。 (5) さし絵、写真、図表、配色等が鮮明で、本文の書体はUDフォントを使用している。写真や図版を多く用いて製作工程を示し、製作の流れが詳しく分かるよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い （「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各編の冒頭に「リンク」「他教科」「小学校」マークを用いて、教科間・学校種間の連携が高められるよう配慮されている。 (2) 環境に関連する内容には「環境」マークを付し、環境の保全や省エネルギーなどに対応していく態度が身に付くよう配慮されている。 (3) 各編で、見方・考え方を扱い、理解する・問題解決に取り組む・つなげる、広げるという学習の流れを積み重ねることで主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫されている。 (4) 活動や問題解決例を多く掲載し、主体的に調べたり、協働して比較・検討したりするための発問などを設け、深い学びのための工夫や社会との連携を考えられるよう配慮されている。 (5) さし絵・写真・図表等の内容は適切で、説明やタイトルなどが記述されている。伝統的な製作物から新素材や最新の建造物等まで幅広く取り扱うことができるよう配慮されている。 (6) 「チェック 技術の見方・考え方」で問題解決を確認し、「学習のまとめ」で知識・技能の確認や考えを深め生活に生かすためのまとめができるよう項目や観点が工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術を学ぶよさを感じられるよう、「問題解決カード」をもとに、生徒が主体的に問題解決できるよう工夫されている。 ・ 多様な題材を取り入れ、製作・実習の際のつまづきを写真や図で示すなど、円滑に学習できるよう工夫されている。 ・ 情報モラルでは、中学生のにとって身近な問題を取り上げ、生徒が危機感をもって学習に取り組むことが考えられ、学習意欲につながる。 ・ 「技術の匠」では、製作者、生産者、開発者、企画者などの思いや願いを感じることができ、技術の良さに触れられるよう工夫されている。 ・ 学習の振り返りや評価では、相手意識をもって行うことができる。 ・ Society5.0 や統合的な問題解決が記載され、学んだことを生かしてより発展的に学習したり未来を考えたりしながら、学習を深めることができる。

採択基準 発行者名	教育図書 (New 技術・家庭 技術分野 明日を創造する)
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ <見つける→学ぶ→ふり返る>の学習の流れで、学習の理解を自己評価して深められるよう配慮されている。 ・ 設計・計画の流れを各編で共通で4ステップにまとめることで、生徒が問題解決の力を養えるよう配慮されている。 ・ 技術の役割や活用についてまとめることで、これまでに学んだ技術の見方・考え方を働かせることができるよう配慮されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 (本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等)	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3要素に沿って系統的に配列されている。 (2) ガイダンスや各章の題材構成が、「見つける」「学ぶ」「ふり返る」等の身近な問題から、生活を工夫し、創造することができるよう工夫されている。 (3) 生活を実感的にとらえるために「スゴ技」「技ビト」「資料」などで興味・関心をもった追究ができるように配慮されている。 (4) 実習中等の安全な作業の方法や事故防止のポイントを、巻頭に示したり、文中に「安全マーク」「衛生マーク」で記したりして、安全に作業できるように配慮されている。 (5) さし絵、写真、図表、配色等が鮮明で、本文の書体はUDフォントを使用している。実習例などを見開き2ページ大きく表示し、左から右へ製作の流れが詳しくわかるよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い (「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価)	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学習の項目の冒頭に他教科や小学校とのリンクマークを設け、教科間・学校種間の連携が高められるよう配慮されている。 (2) 「環境マーク」「共生マーク」を配することで環境への意識を高め、持続可能な社会に対応していく態度が身に付くよう配慮されている。 (3) 各編で、見方・考え方を扱い、見つける、見つめる・学ぶ・ふり返るという学習の流れを積み重ねることで主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫されている。 (4) 生徒がイメージしやすい発問を生徒同士や生徒と教師による対話形式で掲載するとともに、本文を3文構成にして、深い学びのための工夫や社会との連携を考えられるよう工夫されている。 (5) さし絵・写真・図表等の内容は適切で、説明等が段階を追って記述されている。各章扉に最新の技術や建造物などを取り扱えるよう配慮されている。 (6) 各編の1章、2章の終わりにまとめのページが配置され、各編の終わりには3つの観点毎にまとめ問題が配置されており、内容を確認することができるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入で簡単な題材の製作をすることで、製作することの喜びや技術を学ぶことのよさを感じられるよう工夫されている。 ・ 多様な題材を掲載し、手順を分かりやすく示すことで、興味・関心をもって追究できるよう工夫されている。 ・ 情報モラルでは、知的財産権や著作権、個人情報等のプラス面マイナス面の両方が記載されている。さらに事例を通して学びを深めることができる。 ・ 道具の手入れという生徒の育ちに大切なことに触れている。 ・ 環境を保全する、災害時に役立つ技術を大切するなど、社会問題に焦点をあてる工夫をしている。 ・ 設計の仕方について、①問題の発見 ②目的や条件をもとに構想 ③構想の具体化 ④設計のまとめ とステップを示し、学習しやすい配慮がある。

採択基準 / 発行者名	開隆堂（技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を通して社会や環境と技術との関わりについて理解を深められるよう配慮されている。 ・ 導入課題を設けて生徒に問題意識を持たせ、自ら解決しようとする能力を養うよう配慮されている。 ・ 社会や環境と技術の関わりについての理解に基づき、技術の在り方や活用の仕方を評価・活用する態度を育むよう配慮されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「生活や社会と技術」「技術による問題解決」「これからの技術」の3要素に沿って系統的に配列されている。 (2) ガイダンスや各内容の題材構成が、「調べてみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」等の身近な問題から、生活を工夫し、創造することができるよう工夫されている。 (3) 生活を実感的にとらえるために「参考」「探究」「コラム」などで興味・関心をもった追究ができるよう配慮されている。 (4) 実習中等の安全な作業の方法や事故防止のポイントを、最初に全体像をイラストで記し、「安全」マークで記し、安全に作業できるよう配慮されている。 (5) さし絵、写真、図表、配色等が鮮明で、本文の書体はUDフォントを使用している。自分が作業しているアングルで撮影した写真や図版により、製作の流れが詳しく分かるよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各内容の扉に「小学校との関連」「中学校他教科との関連」があり、関連する他教科と連携を図れるよう配慮されている。 (2) 環境に関する記述部分には「環境マーク」を付して、環境への意識を高め、循環型社会に対応していく態度が身に付くよう配慮されている。 (3) 各内容で、見方・考え方を用い、気付く・はたらかせる・定着させるという学習の流れを積み重ねることで主体的・対話的で深い学びにつながる授業展開が工夫されている。 (4) 他者と関わり合いを持ちたいくなるような「実験」「課題」などを適所に配置するなど、深い学びのための工夫や社会との連携を考えられるよう工夫されている。 (5) さし絵・写真・図表等の内容は適切で、説明やタイトルなどが記述されている。伝統的な工芸や新技術等も幅広く取り扱えるよう配慮されている。 (6) 各内容の終わりに「学習のまとめ」を設け、チェック項目による確認や、技術の仕組み、工夫の評価と、学びを深める発展的なまとめができるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術と産業との関わりを随所に掲載し、技術を学ぶことのよさを実感し、勤労を重んずる態度を養えるよう工夫されている。 ・ 実習を行う際は、科学的な原理・法則などを踏まえて計画・設計し、具体的なものが創造できるよう工夫されている。 ・ 各編の最初に「世界の技術と日本の技術」の歴史が扱われており、技術の発展の流れが分かり、興味関心をもって学習に取り組めるよう工夫されている。 ・ 生物育成では林業の記載がある。 ・ エネルギー変換の技術、情報の技術の実習例では、災害時に役立つ内容を扱うなど、社会問題に焦点をあてる工夫がある。そのため、未来に向けてアイデアを提案したりすることで、学習意欲が高まることが考えられる。 ・ 技能面において、指先までの拡大写真が掲載され、とても分かりやすい。また、動作のポイントが丁寧に示されている。